

# 学問の政治性

■学際的な研究における政治論争

学際的な研究



政治論争に発展しやすい

〈要因〉

- ・人々の関心を引きやすい
- ・答えを確定しにくい

# 第一段落

■学際的な研究における政治論争

特に現実の社会問題が関わる  
場合



時間の問題：重要な要素

〈例〉地球温暖化のジレンマ



論争が続く

## 第一段落

■学際的な研究における政治論争

筆者

論争の存在自体を肯定的に捉える

理由

↓学術的論争と政治的論争の境目が不明確

↓人間の認識能力の不完全さと対象の複雑さ

⇨政治性が生まれるのは避けがたい

## 第二段落

### ■ 価値観の反映としての学問

完全に世界を認識し記述できるシステムはない



必ず情報が欠落している



・どの情報を減らすかは各分野の選択

↓複雑な系を扱う不確実性が政治性を呼ぶ

## 第二段落

### ■ 価値観の反映としての学問

- ・ 社会的課題を扱うかどうか  
↓ 選択自体が政治性を帯びる

一つの価値観・政治的信念の  
一種



中立的に見えるのは、それが  
マジヨリテイにとって一般的  
だから

## 第三段落

■ 検証する対象を増やすことの  
有効性

研究の過程に政治性が入り込む

〈例〉 不利な証拠の隠蔽

↓ 研究不正



〈例〉 コンピュータによるシミュレーションなど  
確実さにおいて劣る要素を判断材料に

↓ 「実証的」でない・政治的意図がある



論争になりやすい

## 第三段落

■検証する対象を増やすことの  
有効性

研究の過程に政治性が入り込む

筆者

科学史を踏まえると、検証の  
対象を増やす方が実りが多い

↓シミュレーションも現在は  
科学的推論の一つとして認  
知されている

## 第四段落

■体系性のあるバイアスを重ね合わせることの大切さ

複雑な対象を前に「価値中立」を掲げる

=

マジヨリテイの価値観に浸って自らの政治性を自覚できていない状態

+

人間の理性の限界  
(無意識のバイアス)

←

学問が不可避の政治性を帯びることを踏まえて学問的方法論に根ざして言葉を紡ぐことが大切

## 第四段落

■体系性のあるバイアスを重ね合わせることの大切さ

学問的方法論に根ざして言葉を紡ぐこと

=

・世界を認識する異なったやり方として受け継がれてきた人類の遺産

・体系性のあるバイアス

←

継ぎ合わせ、重ね合わせる

←

様々な分野が存在する本当の意義